



社会福祉法人鶴風会

後援会ニュース

No. 27(平成四年)
社会福祉法人鶴風会

後援会

東京都武蔵村山市学園4-10-1
☎0425-61-2521
事務所・東京都中野区
本町2-15-13 ☎03-3372-7650

後援会ニュース27号をお届け致します。
施設の念願であります全面改築の実現化を目指し、鶴風会理事・評議員・東京小児療育病院ケースワーカーの方々から原稿を戴きました。なおチャリティバザー・パーティを本年も開催致しますので、何卒御支援、御協力をお願い申し上げます。

やさしい社会

そして生き甲斐

社会福祉法人鶴風会

理事 一宮 文乃

この頃、何となく日本人の心が変わってきたような気がします。物が溢れ、財テクに奔走して、ブル景気が終わったところで、ハッと吾に返りこんなことでよいのだろうか、と漠然とした思いが出てきたようです。とかく自分中心に過ぎてきたこの半世紀後半は、他人に対する思いやりは、どこかえ置き去られていました。国際的な激変、崩れ去った物、金、への執念から、心の優しさが見直されてきたのがこの頃の雰囲気のように思えます。

平成三年度のバザーや、チャリティ・パーティは、前年にも増して多くの方々の御好意と善意で、盛会でした。ボランティア活動が、少しづつ人々の心にしみこみ、いっしょにその行為が特別なものではなくなくなってきています。ボランティアとは、感謝されようが、されまいが、行うことであり、対価を求めたり、ましてその行為を自分の売名のために利用するなんてことは論外です。報いを求めない無償の行為こそが、真のボランティアです。鶴風会に、多くの善意ある方々が御後援下さるのは、余裕があるからするのではなく、優しいお心から、據出して下さることを、私達は深く感謝して止まないのです。東京小児療育病院、みどり愛育園ともに、多くの人々に支えられて、良い環境で過している障害児は幸せだと思えます。人に恵まれたこの施設も、年月と共に老朽化するの如何ともし難く、一生懸命に介護してくれる人達のためにも、改造が急務となりました。福祉で働らく人達が生き甲斐を感じられるような場を提供できれば、これに勝る喜びはありません。共々に、手を携えてがんばりたいと思う次第です。

およそ生き甲斐とは、各自の生命から生ずる内面的な欲求であり、たった一度の人生をいかに生きるべきか、何を為すべきか、という理念から生まれます。この理念が崇高であればある程、生き甲斐は誇りとなり、やり甲斐となり、信

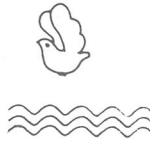


昨年 国際婦人福祉協会から
英国大使夫人、他十名の方々が当施設を視察・見学に見えられました。大変に感動された御様子でその折、福祉協会から、当施設の通園児のために送迎バスを御寄贈下さいました。

念となつて大いなる力を生みます。病院で働く若い人達が、この生き甲斐に強い情熱をもってくれたら、それは更に素晴らしい力を、發揮してくれる筈です。

私達も日常診療とは別の所でこの活動に参加できることは、医療者としての更なる生き甲斐と、喜びであります。

いろいろな所で、弱い立場の人達への個人的な思いやりと、社会的な思いやりがみられるようになり、やさしい社会をつくろう、という意識が、一般の人々の間で盛り上っていることを痛感するこの頃です。



募金のお願い

社会会福祉法人鶴風会評議員

後援会 ニュース編集委員

小川 昭子

暖冬とは申せ、大雪に見舞われりしている間に、二月も終わろうとして居ります。

皆様、お元気で新しい年を迎えられた事と存じます。

扱て、東京小児療育病院並びにみどり愛育園も、昭和三十九年四月十日、開院以来二十七年余を迎

えました。それ以来、龍先生をはじめ先輩後輩の諸先生方、各分野の方々の御努力、御苦労によって二十数余年を経た現在、目をみはるような充実、発展を上げて参りました。然し、内容の充実とは裏腹に、施設の方は老朽化が進んでしまいました。そして本年度、東京から建て替えを検討するよう指示されました。

建て替えについては、満二十五周年を経過した頃から懸案となつて居りましたので執行部で検討した結果、大変な難事業であるが実施すべきであるとの結論に達しました。更に理事会、評議員会の承認を得、いよいよ具体化する事となりました。

現在の社会情勢を考えますと、先行きは経済の低迷下と、不安な要素が多々でございます。この時期に、改築に対して募金の御願いは心苦しい限りでございますが、後援会を御支え下さっておられる皆様には、どうぞ事情を御理解の上、今迄同様の暖かい絶大な御協力の程を、心から御願ひ申し上げます。



☪ 平成4年度 チャリティ・バザールへの御願ひ ☪

日時 平成4年 秋
場所 東京小児療育病院訓練棟

平成3年度バザー結果

昨年のチャリティ・バザーには、多くの方々や協賛会社の御支援によりまして、御寄付、売上共に1150万円余の益金をあげることが出来ました。誠に有難く、厚く御礼申し上げます。施設の資金に大切に役立させて戴きます。本年も何卒よろしく御願ひ申し上げます。

- 食料品、調味料、酒類、石鹼、陶、漆品、文房具、書籍、衣料品など御寄贈をお願い申し上げます。
- 御寄贈品は既に受付ております。
- 連絡先

病院 武蔵村山市学園4-10-1 Tel.0452(61)2521
後援会 東京都中野区本町2-15-13 Tel.03(3372)7650

物	法人・団体	145件	6,764,537円
	個人	442件	
品	計	587件	
寄付金	法人・団体	28件	4,744,659円
	個人	33件	
	計	61件	
合	計	648件	11,509,196円

☪ 第4回チャリティ・パーティコロニスの会への御誘ひ ☪

第3回コロニスの会は、昨秋、帝国ホテルに650名の皆様がお集り下さり、盛会裡に470万円余の純益をあげる事ができました。一重に、御協賛下さいました企業、御参集の皆様の御厚情の賜と一同感謝致しております。益金は施設の建替資金として大切に役立てさせていただきます。本年も、昨年好評のポニージャックスを迎え、楽しい一夜をと企画しております。年末のお忙しい時期ではございますが、クリスマス兼ねての集いと思召してお誘ひ合せ、御参加下さいませ、御願ひ申し上げます。

日時 平成4年12月21日
場所 帝国ホテル
予定人員 600名

連絡先 東京都中野区本町2-15-13 03(3372)7650
鶴風会後援会 コロニスの会



〇・Ｙという青年のはなし

東京小児療育病院

ケース・ワーカー

清宮 祥子

早春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか、障害をもつ子どもたちに、いつも暖かいご支援を賜わりありがとうございます。

施設の建て替えという大事業を目前にして、後援会の輪が確実に広がっています。心からお礼申し上げます。

この度は、自分の意志で後援会に加入された「〇・Ｙ」という青年についてご紹介させていただきます。重度の脳性麻痺の青年〇君の生き方について、一緒にお考えいただき、彼の為に何か、よい情報をお知らせ願えば幸いです。

〇君は昭和四十七年一月より、五十三年三月まで、入院訓練を受けました。長い入院ですが、毎週末外泊し、家族との絆を大切にしながら療育に励みました。彼をみる限り、幼少児期に長期間、親元を離れたことによる弊害はないだろうと思われまふ。昭和六十二年三月都立村山養護学校高等部を卒業しました。大きな不随意運動が出る為に作業ができず、身辺のことも母の手を必要とします。現在、武蔵村山市立のぞみ福祉園に通い、

水曜日は当院の外來で、理学療法と作業療法を受けています。大変な努力家で、電動車いすの操作を習得し、ひとりで団地の中を乗りまわす姿を見かける様になりました。

床から車いすに乗ることは、できませんが、自力で座位がとれそのまま、ずって移動ができ、瞬間膝立ちができますので、家庭では工夫をして乗り降りをしていきます。言葉も特有の障害があり、聞きとりにくいですが、ひとりで、買物をしてきて

母親をおどろかせました。入浴は兄貴と何やらしゃべりながら、実に楽しそうに、母親には心配かけまいと、兄弟で大事な相談をし、実行しているそうです。この



の知恵の泉のような風呂ですが、〇君にとって悩みの種でもあります。兄貴は建築関係の仕事ですから、現場が遠くても、弟を風呂に入れる為に帰宅するからです。兄貴には存分に仕事をしてもらいたい。

自分の犠牲になっていることを辛く思っています。母親の腰痛を心配して早くから、リフトカーを購入しています。自分の介護で、母

親の一生を終わらせたくない、自立したいと考えています。

島田療育園でショートステイの病棟ができた時、自らの訓練と、母親の休養を考えて申し込みました。以来毎年、藤永先生に手紙を出してお願ひし、短期入所を實行してきました。昨年六月に入所が決まり、挨拶に来ました。

『三つの目標をたてて頑張っていますが、自分は、東京小児でショートステイをやしてほしい。』

れました。自頭があつくなりしました。なんと立派な、青年の主張でしょう。

昨年三月ですが、〇君の自立の参考にと、都営の車いす住宅に住んでいる、Mさんのお宅を訪問しました。トイレも見せていただきましたが、これなら自分で、できそうだと思います。

八月には、八王子自立ホームの利用者『A・N』と連絡を取り、お部屋を見せてもらいました。施設とはいえ、アパート感覚で、鍵をかけますと外から入れません。利用料、日常生活、介助等伺いましたが、一週間の体験入所を申し込みました。九月九日面接の運びとなり、早ければ十月半ばすぎにも入所、という感触でしたが、ほぼ全介助のせいでしょうか、今もって何の連絡もありません。

ある時A君が、『〇君が、自立へのテスツのつもりで入所しても、安住の地になってしまい、なかなか出られなくなってしまうから、彼の意欲を考えると、マイナスになるかもしれない』とつぶやいていたことが思い出されます。

〇君が五時以降どんな過ごし方をしているのかは知りませんが、時には、今のくらしから飛び出してほしいと思います。彼が一目おこような先輩、尊敬できる大人と

の出会いを期待したいです。彼の自立の夢の実現には、多くの人たちの支えが必要です。大変な勇氣と忍耐が要求されます。現に頑張ってくらしている人たちを知っています。個人的な努力で頑張らなくても、自己実現が可能な、福祉国家であってほしいと思います。

〇君の主張は、多くの外來に通う青年たちの要望のひとつです。通園の親の会からも、成人対応の充実が、要望書として出されています。

当院は、早期療育の充実、そして総合療育へ、と歩みつづけてきました。それは〇君の歩みでも、あります。最後に皆々様のご健康をお祈りいたします。

☆御寄附振込方法☆

後援会ニュースと合わせて郵便局の振込用紙のみを同封致しておりますが、銀行の方が御便利の方は左記へお願い致します。

- 三菱銀行中野支店 (店番一五二)
- 普通預金
- 口座番号 四一〇七二三五
- 口座名 社会福祉法人 鶴風会後援会

鶴風会後援会寄附者御芳名

三年九月〜四年一月
延六三〇名(敬称略)

赤司 俊雄 浅利 重子 天野まき子
天野多賀子 青木ヨシ子 安西 美代
安東 敬子 赤羽 久子 阿部 久代
阿部 賢昭 阿部 淑子 岸立 かつ
秋山 延子 新 淑子 足立 嘉子
新 幸子 渥美 フミ 安康佳寿美
青木千代子 相原智恵子 青木富美子
赤間てる子 朝山 裕 有馬千恵子
青木 盤鳳 阿部 京子 阿部 文洋
青木りう子 阿部 正和 荒木美枝子
阿部 俊雄 足立茂代子 安藤 高夫
相見 豊子 足上 照子 岩田ひろ子
石川きみ子 井上 照子 井上 瑞穂
伊藤 禮子 五十嵐いづ子 石田 文枝
井上 裕子 一宮 勝也 飯鉢 富子
石原 純子 飯塚 治子 伊藤梅雨子
井上 種子 飯塚 治子 石田 文枝
飯野 龍吉 伊藤 幸子 岩崎由紀子
居合 壽子 石井 幸子 石塚 敬直
今井まつ江 五十嵐良典 飯山 恒子
池田喜久子 今村貴美子 磯部 キミ
石田 芳子 井上 礼子 伊藤 ヒサ
石倉紗恵子 井河スミ子 井上 和子
井上 康子 伊東 モト 井上 千恵子
井上 時子 市田 幸枝 五十嵐桂子
石原 良子 市来フジエ 岩瀬 順子
井上 静子 内ヶ崎仁子 宇藤真由美
白井 重三 内ヶ崎仁子 宇藤真由美
梅原 公江 梅田 寛子 内出 洋道
内出 和子 梅澤 重一 梅澤美和子
上木 艶子 内 孝 宇田川玲子
鶴沢 規子 宇野 知子 植木 雅子
上田 寿枝 内村富士子 上松 正幸
荏原 寿枝 江口 環禧 江川 巖
江部 寛 江口 フジ 荏原 光夫
小川 再治 小川 昭子 小川 文子
大久保秀雄 及川 貞 大岡 文江
岡田 孝子 岡崎 精子 太田 文江
緒方 月 岡崎 君代 大脇 照枝
大熊 進 奥田 嘉門 大木 英子
長田 紘子 沖津 くら 大関 一男
大隅美智子 岡村シマ子 小澤 さと子
大島 誠行 小原 該一 岡田 さと子
沖永 洋子 奥山 綏夫 小野 丞二
奥住 一雄 岡田 清 大日方惟忠
大畑 信子 小田サツキ 岡本 信子
小川 芳子 太田 征四 大島きのゑ
大野 輝雄 大木俊一 岡部 良子
大塚 益之 岡本 康介 小原 和男
岡山 哲廣 大塚 玲子 大橋 和男

岡田 薫 小樽ナツカ 大谷 明子
釜泡登志子 鎌井ふさ子 米子
勝田 三枝子 鎌田 直子 金丸 博文
河津 緑 鎌田 重康 金森 勝士
柿添 瓊子 片岡 信代 加藤まこと
加藤祐之助 兼松 晴彦 香川 睿子
勝村 康明 葛西まゆみ 川野 報子
河内 敬子 河村 裕子 川野 武子
嘉悦 泰彦 金苗美智子 加藤 寿人
河内 静代 加藤 寿子 加藤 喜久
河野 弘之 川合 正雄 川島英世子
笠原 光雄 北村 菊池 久子
岸川 節子 草間 洋子 熊野三和子
黒田 純子 黒沼 典生 黒田 員栄
黒木 久枝 楠 后世 国方 澄子
倉富 孝子 梶 月花 亮
小松 伸弥 駒林とめ子 古賀 和子
小松 京子 後藤千恵子 込宮 久江
呉 政子 小松 栄一 小林 一雄
小林登喜子 越島新三郎 越島美治代
小林 静江 幸 具味子 小泉 錦
後藤 康雄 小森 まき 神津 玲子
神津 康雄 小森 まき 神津 玲子
小島 富子 小林 温子 小松 健三
小泉 寿美子 近藤 正 小林 健三
小池 園子 佐藤 つや 斎藤イサヲ
沢藤 艶子 猿橋 勝子 指田 和明
佐藤 博 敏秀 坂藤 達子
佐藤 恭子 佐藤 様子 坂田 フミ
先山 隆司 佐藤 中 佐川 千枝子
佐藤 昌子 佐々木泰子 坂本 とし
佐藤 昌子 酒井 裕子 佐藤 重雄
斎藤 英達 佐藤 孝次 佐々木徹郎
坂田 ヒデ 佐藤 アヤ子 佐々木幸造
坂田 英達 佐藤 アヤ子 佐々木幸造
財満 信子 佐野アヤ子 白幡八重子
正田二寿子 島 和 柴山 精一
東海林 幸子 白浜 光 柴山 精一
清水 友代 嶋崎紀代子 島津和貴男
志鳥 真理子 波川 朝子 篠崎 松江
上 司 フジ 城丸治栄子 庄司美智恵
嶋田 寛子 嶋田ゆりの 篠田 千和
新藤 文子 白井 貞子 須藤 寧子
鈴木 誠一 末吉 とし 須藤 寧子
鈴木 文子 末吉 とし 須藤 寧子
鈴木 誠一 末吉 とし 須藤 寧子
杉原 理 杉山 卓哉 杉山 尚弘
菅野 明子 杉山 久彦 須貝 照子
菅野 美子 住江 玲子 杉山 陽子
砂川 隆治 鈴木 愛 杉山 栄恵
関口 喜久 関 静 千 哲三

側垣 恵 相馬 直子 宗 恒雄
竹下 こと 多比良 勉 伊達 陽子
高橋知愛子 竹下まき 高槻 義夫
田宮三鶴代 竹下まき 高槻 義夫
高月 正宏 田宮 修子 田宮 親
高橋 龍子 武居 正郎 武井 節子
高橋 清子 高賀 敦子 田中 政信
高橋 篁子 竹沢 修一 高賀三千代
武田 イセ 高橋 久子 高岡 和子
多田 久人 谷 絹子 武田 成
立原 芳子 田中 明美 田中 さだ
田辺 宗史 高橋さゆり 高橋 里佳
田巻 哲夫 高梨美家子 高橋美穂子
竹内 惟義 高木 松江 高田小夜子
千葉 広子 千輪 正子 沈 在俊
土屋 洋子 土屋 満枝 鶴岡 康子
土屋 公美子 壺坂比路里 辻本 和代
辻本 公美子 壺坂比路里 辻本 和代
石植 房江 手塚久美子 友田伊佐子
寺山 清子 富岡 瑞子 戸塚 静枝
外山 チエ 富岡 幸道 中谷 孫一
富澤千代子 藤間 幸道 中谷 孫一
中島 由紀 長野 文子 中谷 孫一
直井美子 中根 幸枝 中谷 孫一
長浜レイ 中根 幸枝 中谷 孫一
中村 克彦 中村志津子 中倉千鶴子
中島 桂子 中尾 淑子 中島 京子
中野 弘一 永沢 康滋 長岡 貞雄
中里 厚 中里 康乃 長岡 貞雄
中里 隆一 中谷 尚登 成田 京子
仲村 健一 中谷 尚登 成田 京子
中西 隆 成田みつ子 中村きよ枝
名川 一男 中村 美子 長井たまた子
中尾 伸 中島 澄子 成木 行彦
長塩 君代 中野 貴子 成木 行彦
新谷 浩之 中野 敏江 西崎 照子
西川 芳子 丹波 修 西崎 照子
野沢 良美 野沢 和弘 野沢トヨ子
野沢 和枝 野沢 多津美 野口 道子
野村 武子 延島 幸子 野村ゆき子
野村マサ子 能戸 知子 野村ゆき子
野須賀富美子 林 堪子 畑 靖子
濱田 雅 蜂谷イソ子 林 敬一郎
濱田 美 萩原 マチ 早川 好古
原田 孝 橋本 フジ子 早川 千鶴子
原田 真己子 坂堂美津子 羽左田 知子
林 真己子 坂堂美津子 羽左田 知子
長谷川 幸子 原田千鶴子 原田 礼子
蜂矢 朗彦 蜂矢由美子 泊谷 朱

長谷部孝子 原田 佳江 服部 晴功
畑 愛子 菱沼 愛子 東出 祥子
樋口 正俊 菱沼 信子 飛見 澄子
平山 玖美子 平嶋 隆光 平田 徹
平井 薫 平岡 隆光 平田 徹
榎垣 有徳 利子 藤島 寿子
藤井 京子 府川 則子 藤岡美津子
藤永 光子 藤田 寛子 藤井恵美子
藤沼 澄夫 古河 一男 福田 和子
福井 卓也 藤崎きよ 星野 和子
堀 友之進 堀内千鶴子 星野 和子
堀 美介 本田 哲子 兎地瑠璃子
本間れい子 保坂 節子 本田 富子
本岡知恵子 松岡 玉枝 松永 哲雄
松岡 義人 松野マサ子 松野 昭一
松沢 多希子 松山 家昌 丸山紗喜子
松尾 英乃 松岡 昌子 丸山紗喜子
松島 均 増岡 隆浪 真柄 千尋
松井 周代 真島 恵吉 松井 千尋
三戸 緑 宮本 礼子 三木 英子
宮川美智子 永吉 秀男 水落 笙子
三登 和代 村上 正通 三宅 祐永
村上リョウ 村上 村山 正昭
村上 孝夫 村上 正通 三宅 祐永
南 孝夫 村上 正通 三宅 祐永
宮本 馨 宮本 礼子 三木 英子
宮川美智子 永吉 秀男 水落 笙子
森川 幸江 森 千代 諸岡 芳野
森 結子 森 千代 諸岡 芳野
山口 銀子 柳谷 紀子 山田 純子
山田三枝子 萩本 瑛子 矢島 正
山住美津子 柳代 瑛也 山田 公美
山本 節子 柳沢 信子 谷高レイ子
山崎 義郎 山口 宗之 保田うた子
山口 元利 山口 美穂 山本 洋子
湯川 玲子 山室 渡 山ノ井きよみ
湯川 玲子 山室 渡 山ノ井きよみ
横山 正子 吉田 栄子 吉田 千鶴
吉田 正己 吉田 栄子 吉田 千鶴
吉澤 和彦 米城 梓 吉田 桃博
米沢 和彦 米城 梓 吉田 桃博
渡辺 古都江 渡辺 静子 渡辺 和子
渡辺 栄久 和田 友子 渡辺 喜代
渡辺 松生 和田 友子 渡辺 喜代

国際ソロプチミスト熱海(浅野 京子
安藤 昌子 平岩 君子 福田 幸子
間瀬 幾代) 武田葉品 中央興医学会
福 神 万 有製菓
東京小児療育病院みどり愛育園
後援会寄附者御芳名
三年八月〜三年十二月
延二〇〇名(敬称略)